

大阪有機化学工業株式会社	
2020年11月期 機関投資家向け決算説明会 質疑応答要旨	
日時	2021年1月8日(金) 13:00~14:00
開催場所	野村インベスター・リレーションズ株式会社 (東京都中央区大手町2-2-2; 野村証券 アーバンネット大手町ビル) * 電話会議システム使用
当社出席者	・ 代表取締役社長 安藤 昌幸 ・ 取締役 執行役員管理本部長 本田 宗一
参考資料	「2020年11月期 決算説明会資料」(2021年1月7日開示)

※この資料は、電話会議における質疑応答の要旨をまとめたものです。

【質疑応答要旨】

Q-1	半導体材料の状況について
A-1	半導体材料の需要は旺盛で、伸びは前年比約3割増。 2019年に新設した設備が売上増に貢献しており、更なる増産の為、収率向上や取れ高増に取り組んでいる。 2020年増設分については、顧客による品質認定を進めており、下期には売り上げ増を予定している。 さらなる需要増にむけて、来期に予定していた設備増設を今期前倒しして計画している。 さらに需要増が続けば、次の設備投資も検討する。
Q-2	半導体材料需要増の背景について
A-2	5Gとデータセンターの増強が追い風となっている。 微細化にする要求が極端に増えていてArFが伸びていると認識している。 最先端のロジックのほか、NANDやDRAMの技術進展による伸びもあると思うが詳しい内訳は不明。
Q-3	EUV関連について
A-3	まだ数量は少なく、売上ベースで、一昨年の約1.5億から昨年は約2億円に増えた。品種(モノマーの種類)が増えている。アクリル系がメインで既存のPHS(パラヒドロキシスチレン)には注力しない。
Q-4	化成品事業について
A-4	UVインクジェット関連材料の売上げは、すでに8~9割くらい戻っている。 不採算製品の終売については売上高としては減少するが、全体の利益率には特に影響しない。

	自動車塗料関連の主力モノマーについては、国内・中国・アメリカの各地域に販売している。各地域の生産台数が売り上げに反映している。
Q-5	光配向材料について
A-5	用途としてはフレキシブルなディスプレイがメインであると認識している。機能的には薄さの向上に貢献するが、採用については顧客マターの部分もあり、大きなポテンシャルにつながる話は今のところないが期待は大きい。
Q-6	機能化学品事業について
A-6	2021年の売上に関しては、半導体関連溶剤の売り上げ増が大きい。ヘアケア材料は事業譲受した分の売り上げ増は見込めるが、利益率は高くないのでトータルの利益率は下がる方向。
Q-7	4Qに販管費が増えている件について
A-7	主な費用においては、新研究棟の完成に伴う機器の引っ越し費用が増加した。特に高度な分析機器の移設に費用がかかった。

以上